



しんの強い子を育てる
静和小学校だより
～誰一人、取り残さない～

10月号
2025.10.1発行
校長：柿沼 透

猫の子のかくれんぼする萩の花 小林一茶



子犬や子猫。
どうして動物の子どもたちって、
こんなにかわいいのでしょうか。

動物行動学者コンラット・ローレンツによれば、
「頭や目が大きく、体が丸くてむっくりしている」身体的特徴に、
人は本能的に「世話をしたい」という感情を抱く、とのことです。

人間の子どもたちのかわいらしさは、その理論をも超えるほど。
子どもたちの無邪気な笑顔、一生懸命に生きる姿。
その姿に、癒やされ、励まされ、養ってもらっているのは、
むしろ、私たち大人の方かもしれません。

校長



◇9月の静和小学校の様子をお知らせします

授業参観・学級懇談会（9/19）



「心を育てる授業」をテーマに、道徳や学活の授業を行いました。心を耕した子どもたちの言葉や表情に強い正義を感じました。ご家庭でも道徳や人権について話をしていただければ幸いです。

6年生ミシンボランティア（9/10・11・17・18・24・25）



一人一人に寄り添い、ミシン操作をとても丁寧に教えていただきました。できあがった作品を見せに来る表情は、どの子も喜び一色。作り上げる感動を教えていただき、深く感謝申し上げます。



5年生が一泊二日でとちぎ海浜自然の家へ行ってきました。潮騒に心躍らせ、潮風に癒やされた子どもたち。大自然の中で仲間と力を合わせて、心も体も一層たくましくなることができました。

◇子どもによる、子どものための運動会に

わたしたち大人が小学生のころ。運動会と言えば、校庭には万国旗がたなびき、露天商が建ち並ぶお祭りのようでした。早朝から保護者のみなさんには、テント張りのため場所取り。お昼には家の方とお弁当を広げて、さながらピクニック。子どもたちの種目も、組み体操や騎馬戦、棒倒しなど、とてもスリリングな内容であったと思います。

現在は、種目数も少なく、内容も穏やかなものがほとんどで、物足りなさを感じる保護者の方もいらっしゃるかもしれません。これは、体育以外の教育課程が新設され（外国語活動、特別の教科道徳、プログラミング教育、ＩＣＴの利活用 等）、体育の授業内容が減ったことによります（4～6年生の総授業時数は、1年間だけで1015時間もあります）。さらに、高さを競う組み体操で多発した、児童の重いけがも問題視されました。

したがって現状では、目を奪うような競技や演技を指導する時間的な余裕がなく、平日の午前中に開催している学校も増えました。中には、保護者のみなさんが参観する「運動会」ではなく、公開しない「陸上記録会」に替えた学校もあります。

本校では、運動で活躍する児童のために、徒競走や障害走は可能な限り実施することと、チームワークを高めるために、団体競技やダンスを実施することは継続したいと思います。

さらに、今年度からは地域と共にある学校として、地域に根付く、岩舟音頭を復活しました。みなさまふるってご参加いただければ幸いです。



今後も、子どもたちによる、子どもたちのための運動会に、ご理解とご協力を、どうぞよろしくお願ひします。

